

いもう 葦毛通信



スイラン

平成 28 年 12 月 5 日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町 3 丁目 1
TEL : 0532-56-6060

No. 44

1、2016 モニタリング報告-8

葦毛湿原は花のシーズンが終わろうとしています。ミミカキグサやホザキノミミカキグサがわずかに残り、季節外れのアザミがわずかに咲いています。11月1日からは今年度の大規模植生回復作業を開始しました。

B-1 地点

B-1 地点は木道沿いにいくつもあった島状部でした。砂礫層がやや高く堆積して乾燥していました。イヌツゲが侵出し、ネザサやコシダが繁茂していました(2012年11月)。平成24年度に除去作業をして、手作業で抜根し、木道側の幅2m程の表土を剥ぎました。

作業後は全体に礫が目立つ裸地になりました。作業後1年目には、島状部の周辺の水分がやや多いところを中心にケシソウが多く発芽しました。木道手前の表土を剥いだところからはトウカイコモウセンゴケが数多く発芽しました。島状部周辺の湿地からはイヌノハナヒゲ、シラタマホシクサ等も発芽してきました。

島状部の中心部は乾燥しており、2年目でも発芽する植物は少なく(2014年7月)、現在も裸地の礫が見える状態です。水分の多いところは3年目で多くの湿性植物が発芽し、裸地の礫が見えにくくなりましたが、ここは変化が少ない状態です。



B 地点-1 : 2012 年 11 月 2 日 (作業前)



2013 年 4 月 14 日 (作業直後)



2013 年 7 月 16 日 (作業後 1 年目 : 西から)



2014 年 7 月 29 日 (作業後 2 年目 : 北から)

2、平成 28 年度作業報告 - 1

11月1日から今年度の作業を開始しました。S地点の一の沢の伐採から始めています。今年の作業は一の沢湿地の復活が最優先の目標です。

S地点

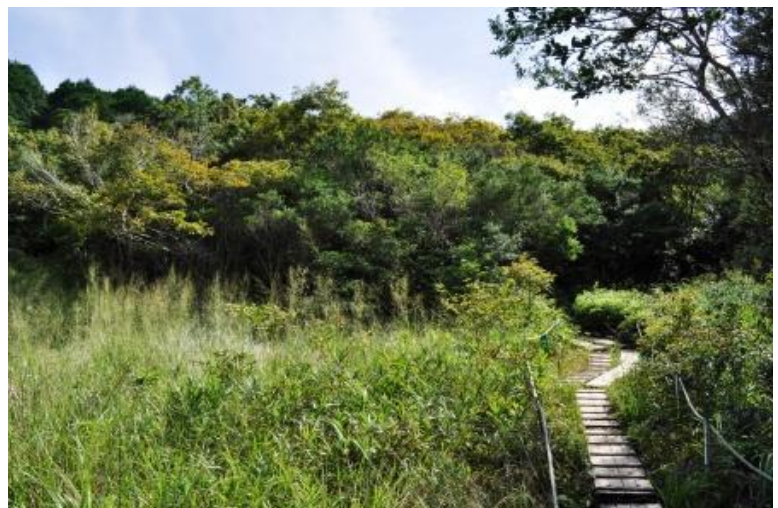
S地点の一の沢湿地は周辺の沢沿いの湿地で、湿地として最も状況が良かったところでした。かつては、ミカワシオガマ、サワラン、トキトウ等が数多く自生していたそうです。



右写真の右側に木道が伸びています。この木道が森に入るところの右側には、「親子岩」と呼ばれている大きな岩があり、この岩の周辺は、かつてミミカキグサ類が多く見られる良い湿地だったそうです。

今年の作業はこの木道の左側から始めました。大勢の方に参加いただき、順調に進んでいます。木を伐って明るくなり、地表の状況が良く分かるようになりました。これまで作業したところと同じように、林縁部は、抜根して地表面を被っている木の根の層を除去すれば、良好な湿地に戻ることが分かりました。

親子岩の北側は5年ほど前に一度木の伐採と除草を行ったところです。しかし、抜根をしなかったため、現在では切り株からヒコバエが伸び、コシダやネザサが繁茂して元の状態に戻ろうとしています。来年は親子岩の周辺を含め指定地西側の作業を行うつもりです。



S地点：2016年9月25日（作業前）



S地点：2016年12月5日（作業中）

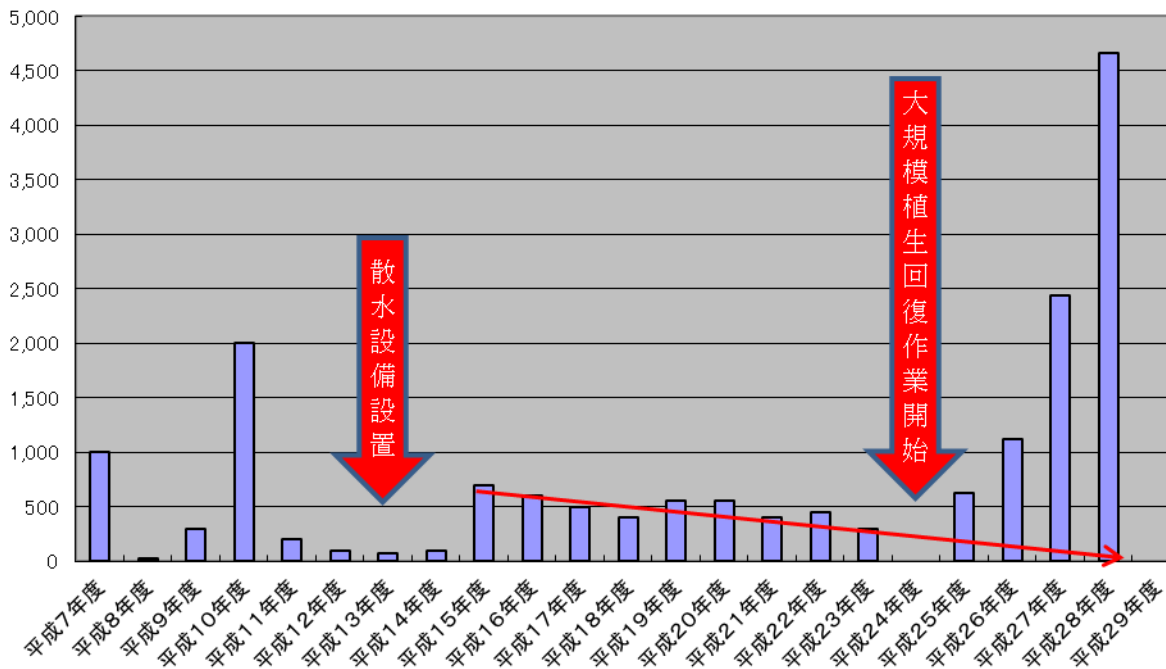
3、2016年のナガバノイシモチソウ

2016年のナガバノイシモチソウは開花も終り、シーズンの終盤です。今年も個体数や開花数が順調に増えました。個体数は、毎年7月末日前後を基準日としていますが、今年も昨年の約2倍になりました。平成24年度の大規模植生回復作業以後、毎年、前年のほぼ2倍になり、今年は4年連続で平成23年度の約16倍になりました。今年も個体数が順調に増え、8月15日には、5,368個体になりました。

大規模植生回復作業を開始した平成

年 度	個体数	最高開花数	平均開花数
平成23年度	300 個体	135 輪	35 輪
平成24年度	記録なし	145 輪	62 輪
平成25年度	622 個体	170 輪	73 輪
平成26年度	1,120 個体	374 輪	116 輪
平成27年度	2,444 個体	471 輪	144 輪
平成28年度	4,664 個体	817 輪	307 輪

ナガバノイシモチソウ自生個体数の変化(基準日:7月末)



平成24年度はデータなし

24年度までは、平成15年度から個体数がわずかに増減しながらも全体としては減っていたので、このままいけば平成28年度あたりには絶滅してしまうのではないかと心配していました。これまで順調に個体数が増えたのは、大規模植生回復作業により多くの木を伐り、森林化して日照が少なくなっていた状況を改善し、散水量を増やすことにより、ナガバノイシモチソウにとって良好な生育環境を整えることができたものと考えられます。

今年の作業では、第1地点でドクダミの除去を春から15回ほど続けてきました。この部分では、来年度に発芽数が増えると予想しています。第1地点は昨年の2倍以上になり、第2・8地点は昨年の3倍以上になりました。しかし、第5～7地点では自生数が減りました。この部分の多くは、ナガバノイシモチソウ以外の背の高い植物が増え、日照が悪くなりました。これらの地点の周辺では、チガヤやノシバが増えナガバノイシモチソウは見られません。特に地下茎を網の目のように広げており、地下茎を取り除かないとナガバノ

イシモチソウが発芽できなくなってしまうことが分かりました。

開花数も顕著に増えて、平均開花数は昨年が144輪、今年が307輪で2倍以上に、最高開花数は昨年が471輪、今年が817輪で1.7倍程度に増えています。

今年度の大規模植生回復作業は、葦毛湿原の作業と共に11月から始めています。指定地北東側の木が大きくなり、かなり日照をさえぎっています。今年度の作業は、この木を伐採して東からの日照を確保すること、できれば南側のコナラやマツもかなり大きくなり、まだ日照をさえぎっているため、これらも伐りたいと考えています。特に東側は一日の日照時間の半分ほどが日陰になっているところも見られます

日別開花数

